

7 看護医療系について

(1)はじめに

医療は人が人に係わる仕事です。人が人の命を尊び、幸せな生活を送る事ができるように手助けをします。近年では高齢化社会に伴い、病院だけでなく地域・在宅・福祉施設などに働く場所が広がっています。

(2)適性(どんな人が向いているか、どんな能力が求められるか)

科学的な知識を持ち、状況に応じて適切な判断ができる能力、他者への理解・ケアをしっかりできる能力を持つ人が望まれています。

日々進歩する医療に対応するため、基礎的な知識技術を身につけた上にも、常に新しい知識技術を学んでいく姿勢とコツコツと努力する力が求められます。人と接する仕事なのでコミュニケーション能力が必要です。患者とのコミュニケーションだけでなくいろんな医療スタッフとの連携、連絡も必要です。相手の立場に立って考える力も求められます。

(3)看護師(助産師・保健師)編

看護師になるためには養成施設で学び、国家試験の受験資格を取得し、国家試験に合格することが必要です。養成施設には、大学(4年)・短大(3年)・専門学校(3年または4年)があります。それぞれに特色があるので、その違いをよく理解した上で志望校を選んでください。

助産師・保健師になるためには、看護師国家試験に合格した上で助産師または保健師の国家試験に合格しなければなりません。助産師または保健師になるための養成施設での学び(国家試験の受験資格)も必要です。大学では、看護師の国家試験受験資格と助産師または保健師の国家試験受験資格を同時に取得できるコースがあります。

① 大学……○修業年限は4年で、看護師養成の頂点であり、研究の他、養護教

諭や看護界のリーダー等の養成が主な目的です。また保健師・

助産師の課程を併設しているところも多いです。

学校数は近年急増しています。

○国公立大学では大学入学共通テストと2次試験があり、かなりの難関です。私立大学もかなり難しいです。

○文部科学省の管轄です。

② 短期大学…○短期大学(3年)は文部科学省の管轄で、国公立・私立があります。

学校数は減っており、少ないです。

② 専門学校…○専門学校(3年または4年)は厚生労働省の管轄で、設置形態

は多種多様です。大学の医学部附属や病院附属、日本赤十字、公立、私立などがあります。大学への編入の道が開かれています。4年制の修了者には高度専門士の称号が付与されます。

○現場での即戦力となる実務看護師を養成する目的で作られているので、実習の時間に全授業の3分の1を充てています。

(4)医療系編

医療系の仕事には、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・視能訓練士・診療放射線技師・臨床検査技師・臨床工学技士・義肢装具士・柔道整復師・鍼灸師・救急救命士・歯科衛生士・歯科技工士などがあります。

す。これらの仕事に就くためには、大学(4年)・短大(3年)・専門学校(3年または4年)の勉強で国家試験受験資格を取得し、国家試験に合格することが必要です。看護師の養成施設同様それぞれに特色があるので、内容をよく調べた上で、自分に一番あった養成施設を選んでください。

医療系に携わる人物としての適性を判断するため、面接・小論文が重視される傾向があります。早い時期から目的意識をもって準備し、模擬テストを受けるなどして受験校を決めてください。

(5)入試概況

○学校推薦型選抜は「適性検査」「面接」「小論文」などを中心に、選抜方法は

学校によって異なります。一般選抜より入試科目が少ないです。評定平均値・面接が重視されます。

○一般選抜は「国」「英」「数」「理」の4教科が主流であり、試験の結果が重要視されます。学校によって入試科目が異なるので志望する学校の入試科目をしっかりと調べて対策する必要があります。

○どちらにせよ欠席が多い(3年間で10日以上)のは不利になります。

○入試の勉強は、学校推薦型選抜と一般選抜の両方を視野に入れて対策しておきましょう。

(6)入試対策

①受験科目の確認

○学科試験の科目は国語、英語、数学、理科の中から試験をされることが多いです。実際には学校によって異なるので、学習を進める上で、入試科目を確認しておく必要があります。

②基礎的学力の充実

○専門学校では、一般に高度な応用力を必要とする問題は少なく、基本的な問題が幅広く出題される傾向があります。教科書レベルの基礎力をしっかり身につけることが大切です。基本事項理解用と問題演習用を各1冊ずつ用意したら、徹底的に覚えて、繰り返し問題をやってみましょう。

○数学は「できるか」「できないか」で明らかに大きな差が出るので、不得意科目にならないようにしておきましょう。

○過去問を何度もやってみることは、実力錬成につながり効果的な学習です。

○模擬テストを必ず受けましょう。看護医療系に特化した模擬テストがあるので進路部からの案内を見落とさないようにして申し込んでください。

③最後まであきらめない

○医療系学校は多種多様で難易度にも差があり、合格が難しいところもありますが、比較的そうでないところもあります。最終目標があくまでも看護師や医療従事者になることと考えると、進路決定に関しては特定の学校にこだわりすぎず、柔軟な考え方で臨むことも必要です。

○大学受験と同様、目標校、チャレンジ校、安全校という受験計画を検討して臨みましょう。

④看護体験・医療職体験・学校公開に積極的に参加しよう

○希望する職業の看護医療体験には積極的に参加しましょう。職業体験をすることで、自分に適性があるかどうか判断することができます。進路指導部から案内をしますので申し込んでください。

○オープンキャンパスに積極的に参加しましょう。学校の雰囲気を知ることができ自分に合っているかどうか判断することができます。ひとつの学校に限らず、複数校参加してみましょう。学校によっては入試問題の傾向対策に関しての情報も得られます。

⑤面接・集団討論・小論文の準備もしっかりしておこう

○『相手の言う事が理解できる、自分の言葉で的確に表現できる』ことが要求されるので志望動機や

志望理由などについては、具体的かつ明確に答えられるよう練習しておきましょう。

○ 小論文については 特に国語力が要求されるので、小論文を書く練習をしておきましょう。

○本や新聞(特に、保健、衛生、医療分野)をよく読み、自分の考えや意見をまとめたり、書いたり、発表するのも大切です。特に、それらの分野において話題となっている記事に目を通し、理解を深めておきましょう。

⑥学校に入学してから卒業並びに資格取得までに要する経費を調べておこう

○入学金・授業料以外にも施設費、実習費、保険代、教科書代、実習衣代など必要経費が学校により大きく異なります。年間 200 万円近い学費が必要になることもあるので、よく調べて保護者とも相談をしておきましょう。

○看護師については、奨学金制度の種類や数も多く卒業後の就職条件によっては返済を免除される制度などを設けている病院奨学金もあります。京都府看護師等修学資金貸付制度もあります。理学療法士、作業療法士、言語聴覚士についても京都府の修学資金貸与があります。他の方面の進学に比べると、経済面での支援制度が充実しています。経済事情も踏まえて必要な場合は、将来の返済計画を慎重に検討した上での活用を考えてください。